

平成29年度 事業 報告 書
平成29年1月1日 から 平成29年12月31日まで

特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

1. 事業の成果

「ラオ・フレンズ小児病院(LFHC)」は開院 3 周年目を迎え、入院患者数は前年に比べて 56%増、外来患者数については 25%増となった。新生児室の需要がかなり高く、稼働率 100%越えの月が数か月続くこともあった。今年には特に人材育成に力を入れ、海外から専門分野の指導者や医療ボランティア等の協力の元、ラオス人リーダー育成、専門性を伸ばすという観点から、遺伝性の血液疾患「サラセミア」、発達障害に心疾患、HIV 感染症等、様々なテーマで研修を実施した。LFHC スタッフが院外の医療施設のスタッフへ教育する、といった取り組みも実現した。英語教育もレベル別、時には職種別に分けて、継続して実施している。また、専門外来として毎週火曜日に発達障害児専門のクリニックを、毎週木曜日には遺伝性の血液疾患であるサラセミアの子供たちを対象としたサラセミアクリニックを正式に開設。院外での活動（訪問看護、HIV/AIDS ケア、健康予防啓蒙活動等）を主とするアウトリーチプログラムと連携し、患者のフォローアップに努めている。アウトリーチプログラムでは、通常業務に加え、初の試みとしてゴミ処理場に住む子供たちの健康チェックを実施。継続したフォローアップが必要であることから、今後の訪問プランニングを立案中である。カンボジアのアンコール小児病院（AHC）の医療教育支援事業、地域医療支援事業に対しては、さらなるカンボジア人医療従事者のスキル及び医療レベルの向上と地域住民の衛生予防及び医療に対する意識改善を図るため、継続して支援を行った。ミャンマーにおいては現地 NGO と提携し、村における健康・衛生・栄養等の改善、衛生予防指導事業を実施した。

国内では、赤尾理事が医療功労賞を受賞し、メディア等で取り上げられた。赤尾理事の報告会や他団体との共催イベントの開催、「ラオスフェスティバル」へも参加し、団体の認知度を広めることに努めた。また、昨年に続いてクラウドファンディングへの挑戦やチャリティイベントを企画、開催し、運営資金の確保に繋げた。イベント等ではニュースレターやリーフレットを配布し、これらを利用した普及啓発活動を行った。青森県の中学校では赤尾理事がエイズ普及啓発活動として「エイズと命」をテーマに命の大切さについて講演を行った。病院へ寄贈された医療品等の輸送・運搬事業も実施し、現地で必要とされている物資を届けた。

2. 事業の実施に関する事項
(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
最初のプロジェクトとして建設開院した<アンコール小児病院>での医療教育支援事業	医療従事者への教育プログラムの提供や、食品衛生改善の指導を行った。	通年	アンコール小児病院	50 人	カンボジア医療従事者約 600 人	36,008
<ラオ・フレンズ小児病院>の運営及び医療・教育事業	「ラオ・フレンズ小児病院」の運営、医療事業を行った。	通年	ラオ・フレンズ小児病院	約 100 人	ルアンパバーン地区子供、不特定多数	39,634
アジアの恵まれない子供たちへの医師、看護師、その他のスタッフの派遣、教育事業	保健センターへの支援と、適切な医療を受けられない地域への支援を行った。	通年	カンボジア・シェムリアップ、他地域	10 人	各地区計、約 7 万人	714
地域医療支援事業	専門家を派遣し、スタッフへの医療や英語教育を行った。	通年	ルアンパバーン県、近隣地域	20 人	ラオ・フレンズ小児病院スタッフ約 100 名	5,588
適切な医療を受けることが困難な地域での保健ボランティアの育成、衛生予防指導事業	適切な医療を受けることが困難な地域で、衛生予防や栄養教育を行った。	通年	ミャンマー、他地域	5 人	ミャンマー・ヤンゴン地区の不特定多数	997
機材・器具・薬品等の運搬事業	病院へ寄贈された物品や薬品、備品の輸送手配や、運搬を行った。	通年	法人事務所、他	20 人	医療従事者と患者の不特定多数	8
エイズに関する普及啓発事業	青森県の中学校で、「エイズと命」をテーマに講演を行った。	12月	青森県の中学校	2 人	青森の中学生	219
この法人の活動に関する普及啓発事業	HPやリーフレット、ニュースレターを活用、イベント等で広報に努めた。	通年	法人事務所、他	20 人	寄付者、参加希望者、不特定多数	17,174